

総合計画改定に伴う団体ヒアリング結果（平成 27 年度）

1) ヒアリングの概要

ヒアリングの概要	基本計画のリーディングプロジェクトに盛り込むべき取組、各団体が取り組めること等についてうかがい、その結果を具体的な取組内容や取組の主体を検討する際の材料として活用する。
実施期間	平成 27 年 8 月 20 日（木）～8 月 27 日（木）
対象団体	町内 10 団体
質問項目	①各プロジェクトについて、各団体で実施または参加できる取組 ②各プロジェクトの取組を実施するために必要な町の協力や支援 ③その他、リーディングプロジェクトを推進するために必要と考えられる取組など

2) ヒアリングの結果（プロジェクトごとの意見等）

L P - 1 地域文化の学習プロジェクト

団体名	意見等
南三陸町観光協会	・町外向けに防災の体験学習プログラムを提供しており、町の人に講師役を担ってもらっている。町民が観光に積極的に協力してくれる点は他地域にない魅力である。
南三陸町公民館	・町内の団体のうち、伝統文化の担い手がいなくなり伝承が困難になっている団体が半分程度あった。また担い手がいても道具の整備への支援が必要な状況である。 ・自然災害への対応は、災害の種類、発生時刻、曜日等によって異なる。地域の人はそのことを頭で理解しているが、学校ではそのような想定をした訓練は難しい。
宮城県漁業協同組合志津川支所	・町内には様々な食材があるので、学校給食に南三陸産の食材を使ってほしい。 ・総合学習の一環で、食べ物がどうやってできているかを学んでほしい。
南三陸町復興推進ネットワーク	・「わらすこ探検隊」の活動を通じて、この町に暮らす人が普通にしていることを次世代に継承したい。以前は集落の高齢者から学べたが、核家族化やスクールバスの導入等で学べなくなつたので、その役割を担いたい。 ・町の高齢者は一人で様々なことができるが、現在は分業制でスキルが縦割りになっている。それを再び統合し、高度な技術がなくても暮らしていくことを伝えたい。 ・防災力を身につけるには、祖父母と共に暮らし、自然から学び、総合力を鍛えることが近道となる。「生き抜く力」は、町民が当たり前に持つっているべきものである。
南三陸町PTA連合会	・水戸辺地区に伝わる鹿踊りを志津川中学校の生徒が練習、披露している。また大森創作太鼓も行政区の枠を超えて担い手が集まっている。伝統行事に対しては「各地区で取り組むもの」といった意識を持たれているが、各地区で担い手がいなくなる前に手を打つ必要がある。今のうちに町民から継承したい伝統文化を募集し、記録に残しておく必要がある。 ・防災教育は小学校 1 年生から実施されており、中学生では住民の手伝い、高齢者の救出、物資の運搬などを行えるようにしている。子どもたちに「自分がリーダーにならなければ」という意識が芽生えている。

L P – 2 多様なコミュニティの再構築プロジェクト

団体名	意見等
南三陸町観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちのなか大学」で、町民が地域で学び、学んだことを活かして来訪者との交流を行っている。この活動により、異なる行政区の町民同士のつながりも生まれている。 ・町の情報と観光協会の情報を共有し、若い人が活動に参加するきっかけをつくりたい。
南三陸森林組合	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の森林で企業の研修を受け入れているが、その依頼者から、地域の方に話を聴きたいという依頼がある。各地域に講師となる人が育つと良い。
南三陸町公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・行政区が再編されれば、町民にそれぞれ役職が割り振られ、役職ごとに研修を行うことで、人づくりが進み、地域文化の発展に向けた活動も進むと思う。 ・公民館ができれば、町民運動会も始められる。町民運動会は最も良いコミュニティ活動の場である。地域全体で盛り上がり、情報交換の場にもなる。若手が体育部長として活動することで、若手の人づくりにもつながる。 ・子どもから高齢者まで、それぞれの世代にあった学習活動が行われることで、様々な交流が生まれ、自主的なまちづくりにつながる。その意欲を生み出すための支援を町が行う必要がある。
南三陸商工会	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの再構築のために、地域の人が楽しめるイベント等により、地域の絆、つながりを深めていくことが必要である。
南三陸町社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっとバンク」により、地元の人が地元を支える仕組みを作った。ボランティアではなく、「おこづかいをもらう」ということを通じた支え合いを実現したい。 ・高齢者が元気で暮らし続けるために、地域福祉の活動に参加してもらい、医療依存度の低下に努めていくことが重要である。 ・コミュニティが変わることについて、「慣れない人と組む」と考えるのではなく、「仲間づくりのきっかけ」と捉えることもできる。
南三陸町復興推進ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・目的型コミュニティの参加者はどこかの地域コミュニティに属している。目的型コミュニティの活動により地域型コミュニティの活性化につなげられないかと考えている。 ・今の若年層は、地域で暮らすためのスキルを一通り持っているわけではない。今後は、「この人に頼めば何とかなる」というリーダーではなく、複雑な社会に対応する力のあるリーダーが地域社会で求められるようになると考える。 ・コミュニティが成り立つには、インパクトのあることではなく、「つい気になってしまふ」「意識を取られる」という状態をつくることが重要と考える。 ・町内のNPOについては、情報や人材の不足が課題となっているので、町内で常時共有、トレードできる仕組みづくりが必要と考えている。
南三陸町PTA連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・高台移転が完了すれば、地区のリーダーを中心にコミュニティの体制構築が進んでいくことが期待される。 ・地域の人々が集まるれる場所が必要。昔は地域で様々なイベントが行われたが、現在は実施されていない。

L P – 3 交流人口の増加プロジェクト

団体名	意見等
南三陸町観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・食に加え、それを提供する人との出会いをリピーターの獲得につなげたいと考えている。 ・南三陸応縁団を創設し、福祉と観光の両分野で町のファンづくり、情報提供を行っている。東京にいながら今の町の状況を知れた、今度南三陸町に行ってみたいといった声をいただいた。今後、町を訪れたい人、東京にいながら町に関わりたい人等、一人ひとりのニーズを把握して対応していく必要がある。 ・町の魅力そのものは他地域と似ているかも知ないので、魅力の編集、発信の仕方が重要である。
南三陸森林組合	<ul style="list-style-type: none"> ・都市にある企業に森を貸したり、企業から森を活用した研修を受け入れたりという事業を、一つの収益事業として展開している。 ・中小企業でも本町で研修を行え、かつ何度も来ていただけるよう、安く滞在できる宿泊施設の整備が必要である。
南三陸農業協同組合志津川支店	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で離ればなれになった心を、イベントや販売会等を通じて一つにまとめていく必要がある。 ・三陸道の延伸に伴い登米パーキングエリアに産直施設が整備されるようなので、本町でも同様の施設を整備し、農産物、林産物、海産物等をセットで販売できないか。
南三陸町公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの支援者に対し、お礼や近況報告のはがきを送れないか。いかに町のファンを逃さないかが重要である。
南三陸商工会	<ul style="list-style-type: none"> ・今は高校生の修学旅行による来町も多いが、今後は震災や震災復興が注目されなくなることを見据え、交流人口を増やすためのプログラムの構築を進める必要がある。
南三陸町社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地の先進的な取組を PR し、視察に来てもらうことで、「被災地」を「先進地」に変えていきたい。視察が増えれば観光需要も増える。 ・地元の人が集まるような場所であれば観光客も集まる。観光振興のために立派な建物を建てるのではなく、中身が重要である。 ・企業は被災地への支援を行うことで、研修を通じた社員のモチベーションアップ、企業のイメージアップを図れるメリットがある。町にとっても来訪してもらうことにメリットがある。
宮城県漁業協同組合志津川支所	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業体験を震災以前から行っている。漁業体験は命に関わることであり万全の受入体制が必要である。県内で本町ほど体制が整っている場所は少ないのでないか。 ・子どもに漁業体験をしてもらい、お土産を持って帰ってもらうことで、子の親にも漁業に興味を持つてもらうことができる。

L P – 4 定住人口の増加プロジェクト

団体名	意見等
南三陸町観光協会	<ul style="list-style-type: none">交流人口の増加により地域の経済効果が生まれ、町に残ろうと思ってもらうこと、交流をきっかけに町に住んでみたいと思ってもらうことを目指している。仕事はあるので、収入に見合った住宅の確保が課題である。まずは、今町内で活動している人に町民になってもらうことが重要である。移住しなくとも遠方から町に関わり続けてもらう「関係人口」を増加させたい。
南三陸森林組合	<ul style="list-style-type: none">町内への就業希望者が町内で安く住居を確保できるように支援してほしい。
南三陸農業協同組合志津川支店	<ul style="list-style-type: none">県外に転出した人が空いている仮設住宅に泊まれるようにすれば、町外に出た人も一時帰町しやすくなるし、体験観光の拠点としても活用されるのではないか。
南三陸町公民館	<ul style="list-style-type: none">産婦人科医の確保が必要である。当たり前のものがなければ移住・定住も難しい。
南三陸商工会	<ul style="list-style-type: none">町外への購買の流出を抑えるために、町に憩いの場、語らいの場を作ることが必要。生業の場と暮らしの場が離れるため、交通弱者等のアクセスの確保が必要。
南三陸町 P T A 連合会	<ul style="list-style-type: none">復興事業が終了した後の保護者の仕事の確保が課題である。仕事がなければ子どもを連れて町を出てしまう。また、現在の中学生がやりたいと思う仕事が町内にないことも問題である。

L P – 5 南三陸ブランド構築プロジェクト

団体名	意見等
南三陸町観光協会	<ul style="list-style-type: none"> 小さな地域で自然のサイクルが成り立っていることが町の特徴であり、その中で生業や暮らしがあるところが町の価値と感じる。今は一人ひとりがばらばらに取り組んでおり、町全体として目指すものが不明確なので、町が本町の価値、ブランドを示し、地域の人がその実現を目指していくことが重要である。但し、方針を統一するのは難しい。
宮城県漁業協同組合歌津支所	<ul style="list-style-type: none"> 冷凍設備の高度化を検討中であり、これにより季節を問わず海産物を食べてもらうことができるようになる。旬のものはどこでも食べられるので、希少性がない。
南三陸森林組合	<ul style="list-style-type: none"> 震災後、各産業団体間の結びつきが強まっている。 本町の森林の魅力は、海から近いことであり、海と森と一緒に学べることにある。 南三陸産材のブランド化に向け、FSC認証を取得（予定）したことを活かすために、大手の企業との連携を進めていく必要がある。また認証を得た木材をいかに早く全国にPRするかが課題である。行政としてもPRに加わってほしい。 森林を共同所有しているグループ、契約講等との連携を増やしていきたい。
南三陸農業協同組合志津川支店	<ul style="list-style-type: none"> 本町で産業のブランド化に当たっては「森里海」とのマッチングが鍵となる。震災をきっかけとしたPRをし、町内で生産された液肥や木質ペレットを活用した自然循環型の農業を展開していくことが必要である。 農業に従事したいという人はいるが、経営できる人がいない。金銭支援より人材支援をしてほしい。一流企業から人材を派遣してもらえると復興が進む。
南三陸商工会	<ul style="list-style-type: none"> ものをつくるだけでなく、販路の確保など売り方、PRの仕方を考える必要がある。 ブランド化を行うためには、キラキラ丼のように統一の基準を設ける等により、質の担保を図る必要がある。
南三陸町社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境など、町の地の利を活用して第一次産業が儲けられる取組が必要である。 一度買ったら二度と買わなくなるようなものではなく、何度も買いに来てもらえるような商品の企画が必要である。 設備投資の支援や販路の開拓等、大企業とのつながりを活かしていくことが必要である。 行政には、町内で発案、製造された商品等に「お墨付き」を与えて支援してほしい。
宮城県漁業協同組合志津川支所	<ul style="list-style-type: none"> 漁協直販所で、顔の見える形で魚を販売することで、消費者が求めていることが直接わかり、漁師も「単に魚を獲れば良い」という考え方ではなくなってきた。リピーターが増え、より魚を買ってもらえるようになれば、後継者の確保にもつながる。 一部の事業者は漁協のみならず農協や森林組合にも加入している。この町では森の栄養分で牡蠣が育つ等、山、川、海のつながりがある。農林水産業をまとめてPRできる町は少ないと考えるので、組合間の連携強化を行政主導で取り組めないか。
南三陸町復興推進ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 地域に残る寄付の文化を価値、エネルギー、お金に換えて、地域内で経済を回す仕組みを成り立たせていきたい。 商品を売るだけでは他地域に勝てないので、資金調達と組み合わせて販売するなど、工夫して価値を高めたい。